

予 算 要 求 資 料

令和5年度当初予算

支出科目 款：商工費 項：商工費 目：工鉦業振興費

事業名 伝統工芸品デジタル促進実践研修事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

工労働部 地域産業課 伝統産業振興係 電話番号：058-272-1111(内3787)

E-mail：c11355@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 5,659 千円 (前年度予算額：8,000 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	8,000	8,000	0	0	0	0	0	0	0
要求額	5,659	0	0	0	0	0	0	0	5,659
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

本県の伝統工芸品を取り巻く状況は、近年の生活様式の変化や安価な輸入品の増加等により需要の低迷、原材料不足、後継者不足が課題となる中、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、更に深刻となっている。

コロナ社会において、伝統工芸品産業の振興を図るためには、各事業者がデジタル技術を活用し、販路開拓や技術伝承に取り組むとともに、伝統工芸品の魅力を広く発信していく必要がある。

一方、伝統工芸品の従事者の多くは高齢化でデジタルに関する知識が乏しく、SNS等を活用した情報発信や製作工程等のアーカイブ化が技術的に困難という現状がある。

そこで、県内の伝統工芸品産業の従事者を対象にデジタルリテラシー研修を実施することで、デジタルに関する基礎知識の底上げを行うとともに、技術伝承のための製作工程等をアーカイブ化し、デジタル化の取組みを支援することで、伝統工芸品の産業振興を図る。

(2) 事業内容

伝統工芸品産業に携わる職人等を対象にデジタルリテラシー研修を実施し、EC導入やSNS等を活用した情報発信に必要なスキルの習得を促すとともに、伝統技法の伝承、後継者育成・確保に向けた製作工程等の記録保存を実施する。

1) デジタルリテラシー研修の実施

・伝統工芸人産業に携わる職人等を対象に、SNS等を活用した情報発信や、EC導入に必要なスキルを身に付けるための研修を実施する。

2) 伝統的工芸品の製作工程等のアーカイブ化

・本県の伝統工芸品産業の核である伝統的工芸品（国指定の6品目）の技術伝承のため、製作工程等のアーカイブ化を進め、後継者の育成・確保を図る。

(3) 県負担・補助率の考え方

本県のモノづくりの原点である伝統的工芸品等の振興を図る取組みとして県の負担は妥当。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	221	職員業務旅費
需用費	68	消耗品費
役務費	70	通信運搬費
委託料	5,300	研修実施、製作工程等のアーカイブ化
合計	5,659	

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

「清流の国ぎふ」創生総合戦略

[3] 地域にあふれる魅力と活力づくり

(1) 地域の魅力の創造・伝承・発信

④ 「ぎふブランド」づくり

(2) 事業主体及びその妥当性

本県の伝統工芸品の振興を図るとともに、伝統工芸品や郷土工芸品の産地におけるデジタル促進事業を展開し、伝統産業分野におけるDXを推進する取組みの支援を実施するものであり、県が事業主体となることは妥当である。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
 ウィズコロナ・アフターコロナを見据え、伝統産業従事者のデジタル化を支援し、産業の活性化を図る。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R3末)	R3年度 実績	R4年度 目標	R5年度 目標	終期目標 (R5末)	達成率
研修受講者	0名	-	30名	30名	30名	-

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和 2 年度	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %
令和 3 年度	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %
令和 4 年度	令和6年度当初予算にて追加 指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3:増加している 2:横ばい 1:減少している 0:ほとんどない 	
(評価) 3	事業者の大半が中小零細事業者であり、財政基盤が弱い弱であるため、継続した業界支援が必要である。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3:期待以上の成果あり 2:期待どおりの成果あり 1:期待どおりの成果が得られていない 0:ほとんど成果が得られていない 	
(評価)	
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2:上がっている 1:横ばい 0:下がっている 	
(評価) 2	事業内容を精査したうえで、必要額のみを予算措置し、経費策編につとめている。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業が直面する課題や改善が必要な事項 人々の生活スタイルや嗜好の変化に伴い、本県の伝統的工芸品の需要は著しく減少している。
--

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 伝統工芸品は、現在のモノづくり産業の原点であるとともに、本県の伝統や文化を他県や外国へアピールする象徴であり、失ってはならない本県の貴重な宝であるため、引き続きその魅力をPRするとともに、デジタル化等の需要拡大にかかる支援を行う。
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	
組み合わせる理由 や期待する効果 など	【〇〇課】